

第75次 印旛地区教育研究集会
国語研究部「書く」分散会 提案資料

研究主題

書く活動を通して、生き生きと自分の考えを表現する児童の育成

— I C T機器の効果的な活用—



四街道市立みそら小学校

1 研究主題

書く活動を通して、生き生きと自分の考えを表現する児童の育成
～ I C T機器の効果的な活用～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

小学校学習指導要領国語科の目標は以下のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習指導要領では、(2)において、日常生活における人と人との関わりの中で、思いや考えを伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことを示している。また、伝え合う力を高めるとは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることであると示されている。

平成29年度改訂の学習指導要領では育成を目指す資質・能力が3つの柱(「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」)で再整理された。

育成を目指す資質・能力の実現に向け、全ての教科等の学習の基盤となる言語能力の更なる向上が求められている。解説総則編においても「言語能力の向上は、児童の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題」であるとしている)。言語能力の育成において、言葉を直接の学習対象とする国語科が果たす役割は大きいといえる。

(2) 学校教育目標から

＜学校教育目標＞

「みんな なかよく たくましく」(共生・自主自立)

未来に向かって、夢と希望を持てるみそらの子

＜めざす児童像＞

- ①主体的に学習する子ども
- ②約束や決まりを守り、認め合い、助け合い、仲間とともに伸びる子ども
- ③健康安全に気をつけ、進んで運動する子ども

本校では、地域社会と関わりながら集団生活での関わりを通して自ら学び、心身ともに健やかな児童を育成することを目指している。国語教育、情報教育においても、基礎的基本的な知識及び技

能の習得を図り、継続的な学習習慣づくりを行い、主体的かつ意欲的に学習する子どもの育成を図ることをねらいとしている。ICT機器を活用する機会を継続して設け、体験に基づいた確かな理解を促すことで、未来に向かって、夢と希望をもてる児童の育成につながると考える。そのために、情報教育において授業改善や教師の指導力向上、環境整備を行っていきたいと考える。

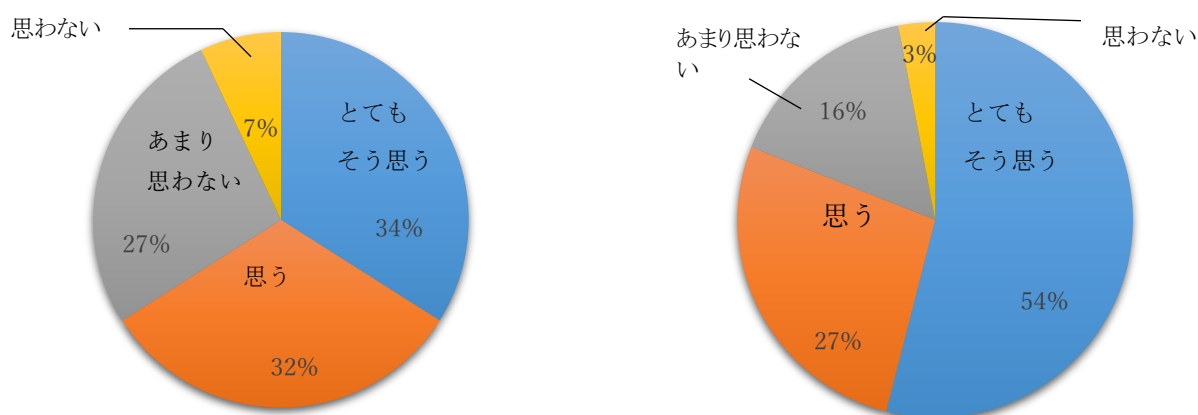
(3) 児童の実態から

本校児童は、素直で、学年を問わず仲が良く、友達や教師と進んで関わろうとする児童が多い。また、見守り隊や四街道自然同好会をはじめ、地域や外部の様々な方々と関わりをもつ学習が多く、学校以外の人とコミュニケーションを取る活動に恵まれている。学習に対する意欲は高く、概ね基礎的な学力が身に付いていると言える。課題としては、個人差が大きく学力に偏りがあることが挙げられる。

また、本校は令和3年度から「生き生きと自分の考えを表現する児童の育成」を主題に校内研究に取り組んできた。教科以外でも生活の中でICT機器の活用場面が増え、自分の考えを様々な場面で表現できる児童が増えてきた。その一方で、千葉県標準学力検査より、国語科の「書く」力が課題であることが分かった。中でも、見たり、感じたりしたことを正確に記録することや意見を述べる文章について、考えを伝えるための書き表し方、文章全体の構成や展開などについての理解が不足していることが課題となった。

R6年度「書くこと」に対して、実態調査を取ったところ、以下のような結果となった。

②自分の思いや考えを書くことは楽しいですか。 ⑦自分の思いや考えを書くことはできますか。



全体的に、書くことを肯定的に捉えている児童は60%以上いる。一方で、書くことはできるが、書くことが楽しいと思っていない児童がいることが調査の結果明らかになった。学習の実態を見てみると書く内容を悩んでいたりと、高学年になってくると書く量も多くなってくるので書き直しなどがあると意欲が低下したりする様子が見られた。よってICT機器を効果的に使用しながら研究を通して書きたいことを明確にしていく。さらに自分の言葉で生き生きと表現できるような児童の育成につなげていくことを研究の課題とし、本主題を設定した。

3 研究の目標

I C T機器を効果的に活用した国語科の書く活動を行うことで、生き生きと自分の考えを表現する児童を育成することができるか、実践研究を通して明らかにする。

4 めざす児童像

自分の思い・考えをもち、伝え合い、学び合うことができる児童

5 研究の仮説

仮説 1

書くことを明確にし、学習の見通しをもつことができれば、主体的に自分の考えを表現することができるだろう。

「書くことを明確にする」とは、伝えることのイメージや目的意識を持ち、自分の書きたいことをみつけることと本研究では定義した。書く目的や内容をはっきりさせるために教師見本の提示や掲示物などを活用することで、児童の目指すべきゴールの見通しを持つことができ、自ら書きたい気持ちになることが期待できる。

<具体的な手立て>

◎教師見本（教師モデル）の提示

◎単元のゴール設定

- ・既習事項の振り返り
- ・ワークシートの工夫
- ・並行読書による学びの深まり

◎思考ツールの活用

◎掲示物の活用

- ・学習規律・流れの統一
- ・作品の校内展示

仮説 2

効果的に I C T機器を活用することで、生き生きと自分の考えを表現することができるだろう。

「効果的に I C T機器を活用する」とは、深く考える時間を確保するために限られた学習時間を効率的に運用することである。また、抵抗感なく書いたり、表現の幅を広げたりするために、視覚的な支援や様々な機能を活用することと定義する。

「生き生きと自分の考えを表現する」とは、自ら積極的に書こうとする姿や、自信をもって相手に伝えようとする姿と定義する。共同編集や視覚的に I C T機器を活用することで友達との意見交換が活発になり、書く意欲につながると考える。

<具体的な手立て>

◎タブレット PC の活用

◎原稿用紙設定の活用

- ・録音や写真記録の蓄積

◎グループでの共同編集・共有機能

◎canva や ChatGPT などのクラウドサービスの活用

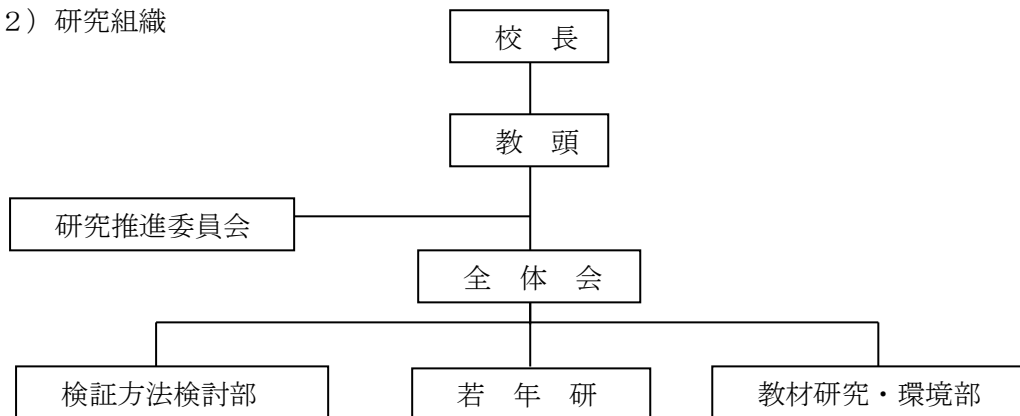
- ・ I C T支援員との連携

6 研究の方法

(1) 研究の具体的な取り組み

- ①研究推進委員会を定期的開催して研究の方向性を決め、共通理解をして進めていく。
- ②国語科の授業力の向上を図るために、講師を招聘し、理論研修を行ったり、授業研修会時に指導を受けたりする。
- ③校内授業研修会を実施し、全員が授業を行うことにより、仮説を検証するとともに指導力の向上を図る。

(2) 研究組織



7 研究の実践

(1) 中学年 第4学年 「調べたことを分かりやすく書こう」

○目標

- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

○単元の計画 10時間扱い(本時6/10)

次	時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点
第一次	1	○単元の見通しをもつ。(手立て①)	・学習の進め方を見て、学習計画をたてる。 ・「学校の不思議」についてのイメージマップを学級全体で作成し、不思議を見付けられるようにする。
第二次	2 3 4	○図鑑に載せるものを決め、調べる。 ○タブレットに、調べたことを記録する。(手立て②③)	・図鑑に載せるものを決め、疑問に思っていることを書き出し、調べたいことを決める。 ・題材について取材する。(写真を撮る。気付いたことをメモする。インタビューをする。) ・インターネットで調べて、わかったことをメモする。 ・疑問や考え、取材して分かったことを項目ごとに分類して、タブレットに記録する。
	5 6 (本時)	○取材メモや写真を並べ、組み立てメモを作り、グループで話し合う。 (手立て④)	・前時で集めた取材メモや写真を並べ、グループで見合い、気付いたことを伝え合う。 ・観点を明確にして、話し合えるようにする。(写真の選び方、言葉の使い方)
	7 8 9	○メモをもとに、伝えたい内容の中心を明確にして、図鑑の原稿を書く。 ○原稿を読み返す	・作品例を提示しながら、図鑑の原稿の書き方について確認する。 ・グループで読み合い、興味をもって読める内容になっているか、伝えたいことが分かりやすく伝わる文章になっているかなどの観点で交流する。
第三次	10	○「不思議ずかん」を発表し合い、学習を振り返る。	・原稿について感想を伝え合う。 ・学習のねらいを確認し、どのような学習ができたのかを振り返らせる。

【仮説 1】

書くことを明確にし、学習の見通しをもつことができれば、主体的に自分の考えを表現することができるだろう。

(手立て)

① 思考ツールの活用

「学校の不思議」についてのイメージマップを学級全体で作成し、選択肢を数多く出すことで「書くことが思い浮かばない」という児童も興味のある不思議を見付けられるようにした。

② 教師見本の提示・活用

組み立てメモを書く際に教師見本を提示し、見通しをもたせた。

また、組み立てメモをお互いに見合う場面では、教師見本の改善点について全体で出し合い、話し合いの観点がつかめるようにした。

図鑑を書く段階では、教師のメモをもとに全体で意見を出しながら、図鑑の一部を作っていく。そうすることで、メモから作文への書き方のイメージが作られると考える。



教師見本の組み立てメモについて全体で話し合い、改善点を見付けることで、話し合いの見通しをもつことができるようにした。

【仮説 2】

効果的に I C T 機器を活用することで、生き生きと自分の考えを表現することができるだろう。

(手立て)

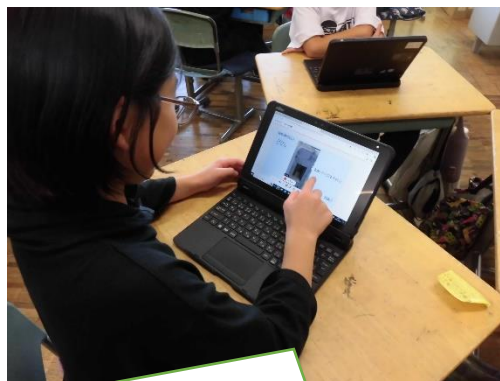
③ タブレット PC の活用

取材メモや写真などをタブレット PC に記録させることで、後で一つの画面で見られるようにした。また、事前にこちらから「はじめ」「中」「終わり」で色を変えたカードを送ったり、「不思議に思ったこと」「写真」などの項目を記したカードを送ったりしておく。そうすることで、構成を意識してメモを書いたり、図鑑に必要な項目が漏れなく記録できるようにした。また、項目別にメモすることで、自分の考えと取材したり調べたりしたことの関係が明確になり、文章を書く際の工夫につなげられるようにした。



④グループでの共同編集・共有機能

記録したものをつなぎ合わせたものを「組み立てメモ」として、そのままグループでの話し合いで活かせるようにした。グループの話し合いでは、共有の画面を使ってそれぞれのメモを見合いながら良い所や改善点を見つけられるようにして、伝えたいことがより明確に分かりやすくなるようにした。



「写真をもっとアップにするといいよ」「広いとあるけど、どのくらい？」と、友達からのアドバイスを色を変えて打ち込み、すぐにタブレットPC上で加除訂正することができるようになった。

<児童の作品>

① 始め(書き出し)

これは何でしょうか
ヒントは体育館のまわりものです



② 取材して(実際に見て)わかったこと

①バスケットボールについて ぶつぶつしていた
②バスケットボールの線とぶつぶつについて 線と文字が入っていた
線の色は黒色

③硬いしぶつぶつしていた



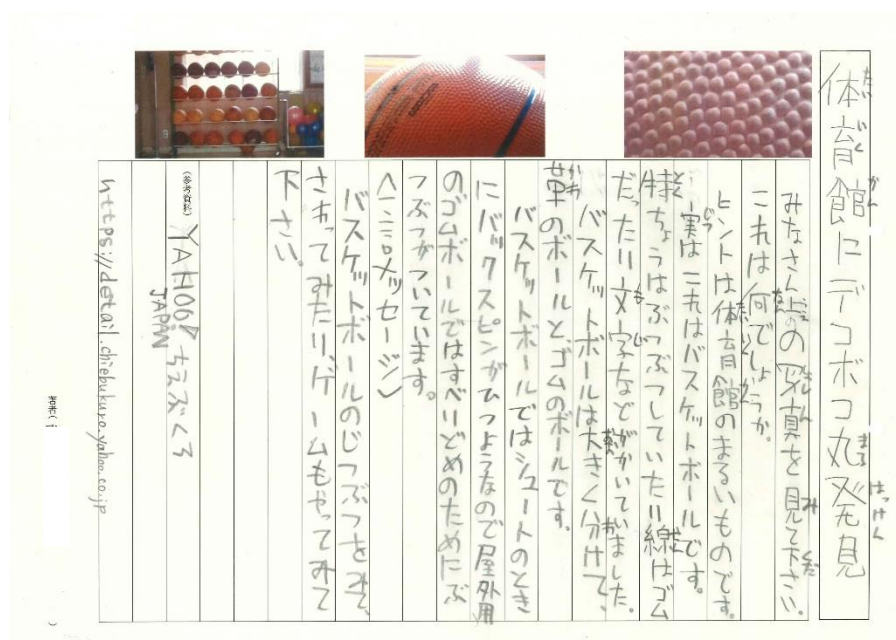
③ 調べてわかったこと

①バスケットボールについて
大きく分けて革のボールとゴムのボールの2種類

②バスケットボールの線とぶつぶつについてについて

ぬい目の部分を隠すためにゴムで目張りして

バスケットボールではシュートのときにバックスピンが必要なので
屋外用のゴムボールでは滑り度めのためにぶつぶつがついている



【成果と課題（○成果 △課題）】

- イメージマップ作りでは、学校にあるものを次々と連想してたくさんの選択肢を出すことができた。そこから、一人一人が興味のある不思議を見付けることができ、意欲的に調べ学習や図鑑づくりに取り組んでいた。
- 教師モデルを提示することによって、分かりやすい組み立てメモの書き方や、メモから不思議ずかんを書く際のイメージをつかむことができ、主体的に学習を進めることができた。
- タブレットPCを使って色々な角度や大きさの写真を撮り、それを見ながら気が付いたことを書くことができた。そこからさらに興味が広がり、その後の調べ学習にもつながっていった。
- タブレットを使用して組み立てメモを作ったことで、誰が見ても見やすくなり、お互いへのアドバイスや教師からの声掛けがしやすくなった。図鑑の文章を書く際にも、メモに必要なことが簡潔に書けているので、作文が苦手な児童も自分の力で書くことができた。
- △組み立てメモを作る際、タイピングが苦手な児童は時間がかかってしまった。
- △組み立てメモについて話し合う前に互いに見合う時間を取っておくと、さらに良い意見が出たと考えられる。
- △組み立てメモの段階で、「不思議に思ったこと」のカードを抜いてしまったので、自分の考えがあまり入らず、取材したり調べたりしたことが中心となる不思議ずかんになってしまった。

(2) 高学年 5年「世界遺産発掘調査団「ミッション！！わたしたちの千葉県を世界遺産に！！」

○目標

- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- (思考・判断・表現等)

○単元計画 11時間扱い(本時9／11)

次	時配	学習活動	指導上の留意点
第一次 (1)	1	○教師見本を提示し、学習の見通しをもつ。 (手立て①) ○学習の最後に「世界遺産発掘調査団～千葉県世界遺産プロジェクト～調査報告会議」を開催し、意見を交換し合うことを理解する。(手立て②)	・NHKの動画をみて、白神山地がどのような場所なのかをイメージできるようにする。
第二次 (4)	1	○白神山地の二つの文章を読み、自然保護の方法について知る。	・段落や接続語に注目させて、理解を深める。
	2	○教科書の様々な立場の資料から自分の立場を決め、意見文の構成を理解し、意見文を作成する。(手立て③④)	・自然保護の特徴を思考ツールに分類し、まとめる。 ・相手に伝えるための、根拠や理由が明確になるように意識させる。
	1	○グループで考えを出し合い、自分の考えを深める。	・一方的な考えではなく、多面的に考え合わせることを意識させる。
第三次 (6)	1	○自分たちの住んでいる千葉県を世界遺産にするために、調べ学習を行い、意見文を書くことを確認する。(手立て②) ○教師モデルを提示し、学習の見通しをもつ。(手立て①)	・世界遺産登録の基準を知り、場所やものの決定材料や意見文の根拠になることを理解する。 ・具体例を挙げて感想と意見の違いを明確に意識させる。
	4 (本時3／4)	○新聞や本、インターネット、映像から自分の考えを思考ツールを用いて整理し、意見文を作成する。(手立て③④)	・自分の考えや立場がはっきりしているか確認する。 ・文章全体の姿に着目させる。
	1	○世界遺産発掘調査団～千葉県世界遺産プロジェクト～調査報告会議を4年生へ行う。	

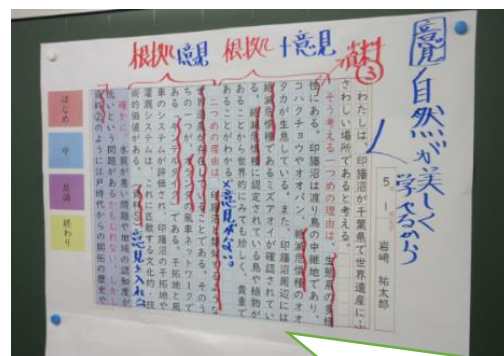
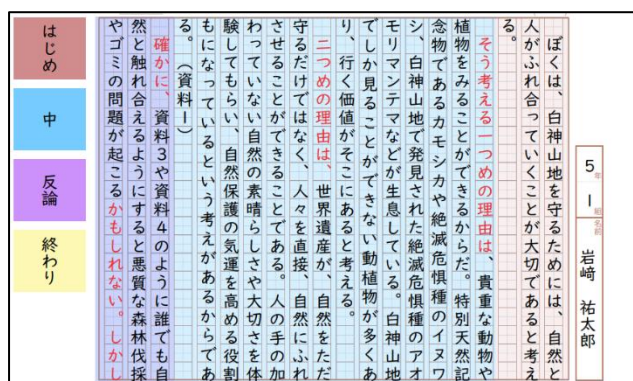
【仮説1】

書くことを明確にし、学習の見通しをもつことができれば、主体的に自分の考えを表現することができるだろう。

(手立て)

① 教師見本の提示

単元の導入で教師見本を複数提示した。教師見本のほかに、ChatGPT を活用して意見文のモデルを10個作成し、読ませた。完成のイメージをもたせ、意見文に必要な情報の選択や情報の活用について考えながら読み解こうという意識づけをした。



千葉県世界遺産プロジェクトでも教師モデルを提示し、意見文を作成するには根拠が必要なことに気づかせ、世界遺産の登録基準を再度確認させ、根拠を書きやすくさせた。

② 相手意識をもたせる単元のゴール設定

白神山地について学習した後、同じ流れで千葉県の世界遺産についての意見文を書かせた。4年生に伝えるというゴールを設定し、自分たちが昨年度学習した社会科の内容を想起させたり、下学年が理解できる言葉を選択する気持ちからわかりやすい文章につながったりするようにした。

学習過程	第一次 (1)	第二次 (2)	第三次 (3)
学習内容と学習活動	- Z会の動画をみて、白神山地がどのような場所なのかイメージできるようにする。 - 学習の最後に、世界遺産発掘調査団 - 千葉県世界遺産プロジェクト 調査報告会を開催し、意見を交換し合うことを理解する。	- 白神山地の2つの文章を読み、自然保護の方法について知る。 - 教科書の様々な立場の資料から自分の立場を決め、意見文の構成を理解し、意見文を作成する。 - グループで考えを出し合い、自分の考えを深める。 - 自分たちの住んでいる千葉県を世界遺産にするために、調べ学習を行い、意見文を書くことを確認する。 - 新聞や本、インターネット、映像から自分の考えを思考ツールを用いて整理し、意見文を作成する。	- 世界遺産発掘調査団 - 千葉県世界遺産プロジェクト 調査報告会 議決を四年生へ行う。

【仮説 2】

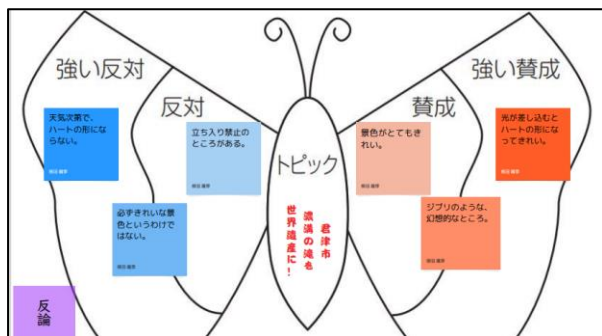
効果的に ICT 機器を活用することで、生き生きと自分の考えを表現することができるだろう。

(手立て)

① canva や Chat GPT などクラウドサービスの活用

ICT を活用して、班で共同作業を可能にすることができるようにした。canva を使うことで、思考ツールに意見が書きやすく、色付け、フォントの大きさ、下線など自分の考えを分かりやすく表現できる利点があると考えた。

千葉県世界遺産プロジェクトでは、個人で思考ツールを使って考えをまとめ、友達と交流して、考えが広がるようにした。



反対意見はこれでいいかな？

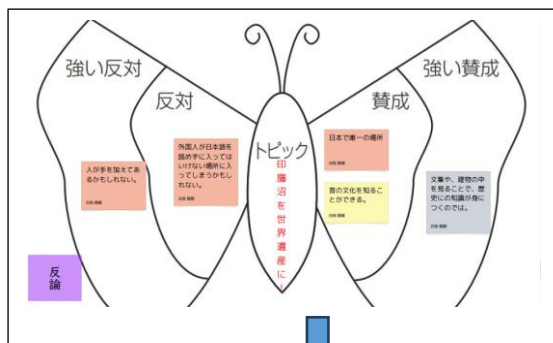
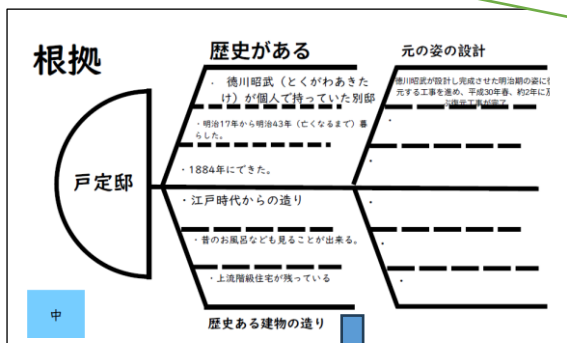


④原稿用紙設定の活用

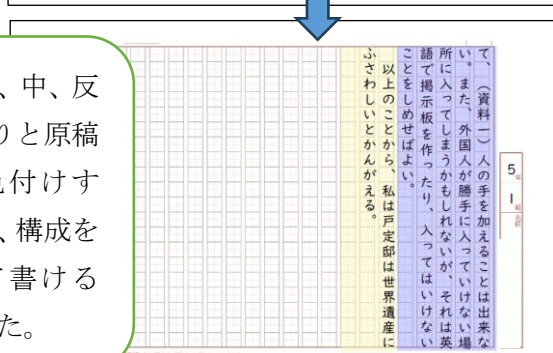
紙の原稿用紙で行うよりも加除訂正が行いやすく、推敲する際に友だちの意見を聞きながら直すことが可能になった。また、Teams のフォルダに入れることで、教師側がすぐに確認したり、コメント機能を活用して訂正のポイントを伝えたりすることができた。

canva に資料がまとめて入っているので、振り返りがしやすい。

＜児童の作品＞



はじめ、中、反論、終わりと原稿用紙を色付けすることで、構成を意識して書けるようにした。



【成果と課題（○成果 △課題）】

○教師モデルや意見モデルを複数用意したことで、書くことや活動内容が明確になり、児童は単元の見通しをもって進んで活動することができた。

○意見文のモデルをたくさん読ませたことで、接続詞の使い方や意見と根拠を分けて書くことなどを意識して書けていた。

11

○4年生に伝えるという単元のゴールを設定したことで、昨年度学習した社会科の内容を想起することができたり、下学年が理解できる言葉を選択する気持ちからわかりやすい文章を書くことにつながったりすることができた。

○canva を活用して思考ツールを作成したことで、色分けや加除訂正がすぐに行えた。

○思考ツールと作文用紙を canva のスライドにしたことで、意見文を書く過程で思考ツール見るなど双方を行き来して書くことができた。学習で積み重ねたものを活用して、成果物（意見文）を書くことができていた。

○紙の原稿用紙で行うよりも加除訂正が行いやすく、推敲する際に友達の意見を聞きながら直すことが可能になった。

○教師側がすぐに確認したり、コメント機能を活用して訂正のポイントを伝えたりすることができた。

△単元のゴールを下学年ではなく、大人に向けて設定するべきだった。下学年にわかる書き方に直すことで意見文の文体が崩れ、文末表現が変わってしまい、学んだ内容が生かせなかった。

8 書くことにおける日常的な実践

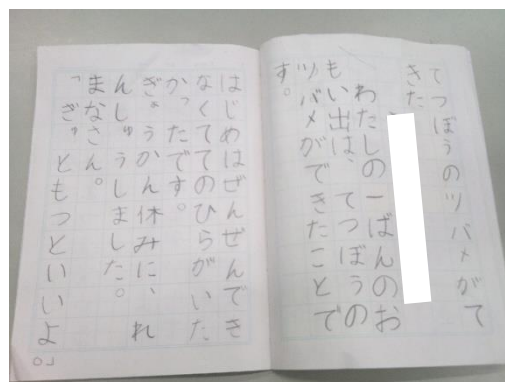
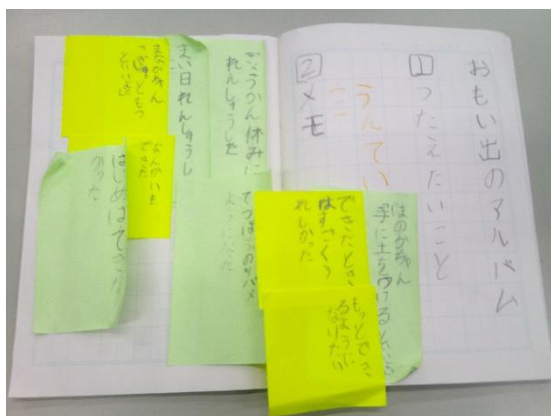
第1学年

「週末宿題での作文づくり」

- ・作文メモを書く際に、書く順番を自由に換えて考えるために付箋を使った。

<成果>

- ・作文を書く際に順番を自由に組み替えることができた。



第2学年

「○から始まる言葉集め」「○○になって一言」「○○のときの音」

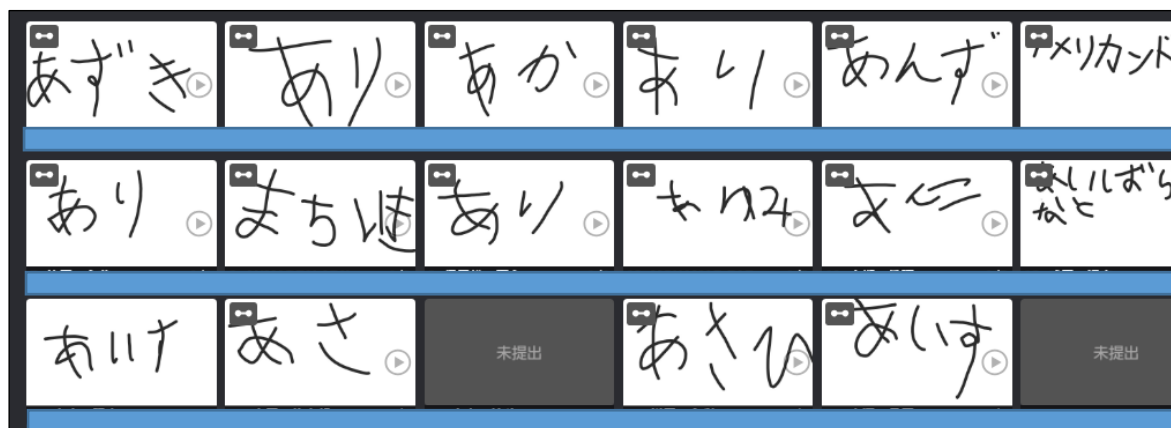
- ・言葉あつまめ…頭文字（平仮名一文字）を指定し、その文字から始める言葉を集める。
- ・一言…○○になったつもりで発する言葉（一言）を考える。
- ・音…○○のときの音を想像する。

各活動で、互いに考えたことを見合う。

<成果>

- ・活動を繰り返すことにより、自分が考えつかなかった言葉（表現）を知り、語彙を豊かにすることができた。作品作りに取り入れることもできた。

	28(月)	29(火)	30(水)	31(木)	1(金)
1 時間目		国語 2024年10月29日-1時間目 「あ」	国語 「き」	国語 「こ」	国語 「せ」
2 時間目		国語 2024年10月29日-2時間目 「い」	国語 「め」が出た時、めになって一言	国語 「き」	国語 かしまりディズニー
3 時間目		国語 2024年10月29日-3時間目 「う」	国語 「く」	国語 「し」	国語 心がうごく
4 時間目		国語 2024年10月29日-4時間目 「え」	国語 「くっ」になって一言	国語 花がさいたときの音	国語 大玉ころがしの「玉」になって…
5 時間目		国語 2024年10月29日-5時間目 「お」	国語 サッカーで、シュートをける音	国語 「す」	国語 いもほりの音



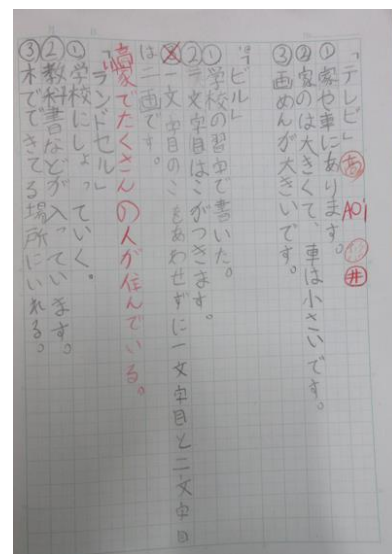
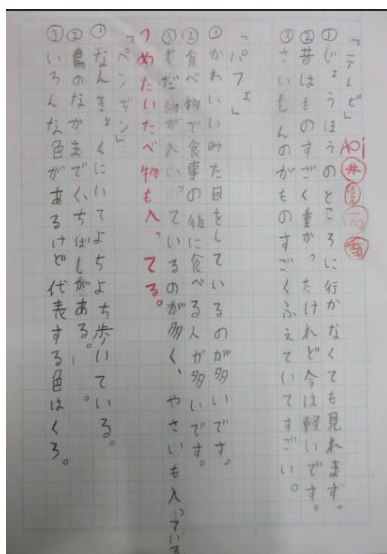
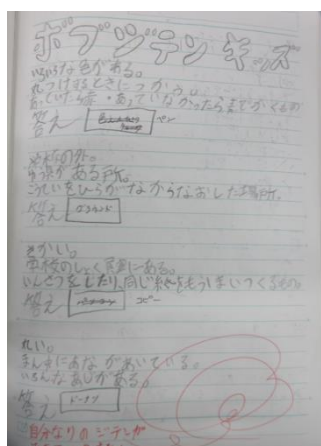
第3学年

「三行説明文」

- ・伝えたい用語を三行で説明し、友達に伝えたい用語を当ててもらうゲームを行った。
- ・はじめは、「ボブジテン」というボードゲームを用いて「カタカナ言葉を平仮名だけで説明する」などの用語や説明する内容を限定して行った。
- ・次に、ノートなどに用語と三行の説明文を書いて友達同士で説明し合い、伝えた言葉は何かを尋ね合った。
- ・ゲームを終えたあとは、もっとわかりやすい説明はないか話し合い、赤鉛筆で直したり付け加えたりして、他の友達とゲームをした。
- ・用語だけでなく、物語の要点をまとめて三行で説明する活動もおこなった。

<成果>

- ・はじめは単語が三つあるのみであったが、徐々に長文で説明できるようになった。
- ・わかりやすい説明となるように、言葉を噛み砕いたり修飾語を使った説明をしたりすることが増えた。



第4学年 ☆国語科のいろいろな場面でI C T機器を使って学習を行った。

「実践①」 「短い詩を書こう」

- ・国語科「いろいろな詩」の学習で、短い詩づくりを行った。
オクリンクで、題名と一文だけの詩をつくり、全体で発表をした。

<成果>

- ・題名や詩が思い浮かばない児童は、友達の商品を見て参考にできた。
大画面にうつしながら全体で発表したのも、どの児童にも作品が伝わりやすく、盛り上がった。

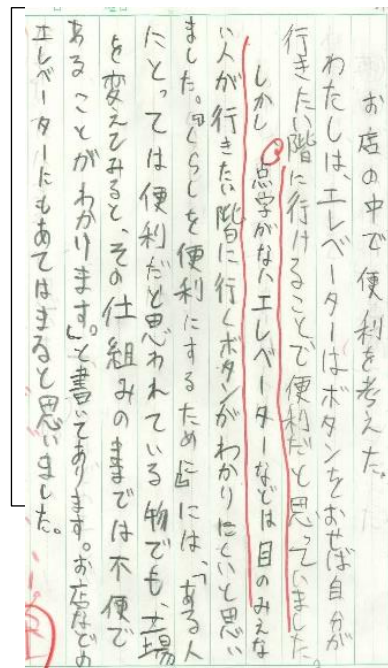
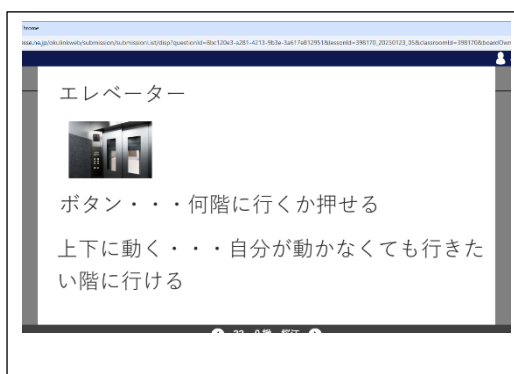


「実践②」 「便利についての自分の考えを書こう」

- ・国語科「くらしを便利にするために」を学習する前に、身の回りにある便利なものと便利だと思う理由をオクリンクにまとめておき、学習が終わった後に改めて「便利」について考え、作文に表した。

<成果>

- ・学習前にオクリンクに残しておくことで、学習前と後での自分の考えの違いを書くことができた。



第5学年

「日記」

- ・日記の題材に様々なジャンルのものを書く活動を行った。

(無人島にもっていくもの5つ・「あれ?ここはどこだ?」から始まる物語・おすすめの本を紹介・好きな動物紹介・学校で新しいルールを作るなら?・生まれ変わるとしたら・アニメや小説の世界に入るなら、、、・「ドラえもん」の主人公はドラえもん?のび太?・いんちきニュース・理想の家ってどんな家?・自分で発明したいもの・名言・えんぴつの使い方を説明してください。)

- ・根拠を入れた内容を書く。相手が納得する、興味をもつ、初めての人でもわかるように内容を考えさせた。

<成果>

- ・文字の量が増え、具体的な内容で書けるようになった。
- ・根拠を探すため、調べてから書く児童が増えて内容がより深まった。



第6学年

「週末宿題での作文づくり」

- ・毎週末に宿題で作文を行った。はじめは漢字推理ゲーム（図1）を行い、文章を書くことに慣れてきたら次に、教師またはクラスのみんなでテーマを決めての作文づくり（図2、図3）を行った。週明けの朝に全体で紹介する時間を設定した。

<成果>

- ・日常の出来事を日記にするときは、意欲が低かった児童も楽しく取り組めた。全体で紹介する時間を設定したことで、友達の作文を参考にしたり、次はもっと説得力のある作文を書こうと意欲を高めたりすることができた。
- ・書くことのきっかけ作りとしてはとてもよかった。

図1

萍

●この漢字は、〇〇〇と読みます。理由を説明します。

●まず、

●次に、

●さらに、

●以上の理由から、この漢字を〇〇〇と読むと考えました。
(最後に決め台詞があれば書く！)

図2

テーマ「あなたはイヌ派？ネコ派？」

●私はイヌ派です。

●理由は、イヌはとってもかわいいし、飼い主にとっても忠実なイメージがあるからです。

●例えば、忠犬ハチ公の話を聞いたことがあると思います。いつもの待ち合わせ場所に飼い主が帰ってこなくても、いつまでも飼い主を待っていたというお話です。愛情をもって接すれば、家族のような信頼関係ができると思います。

●以上の理由から、私はイヌ派です。

述べたいこと
(意見・要求・感想)

理由

例えば

まとめ



図3

- ① あなたはイヌ派？ネコ派？
- ② あなたは「きのこの山」派？「たけのこの里」派？
- ③ 好きな季節はいつ？
- ④ 嫌いな季節はいつ？
- ⑤ 好きなマンガは何？
- ⑥ 『ワンピース』で一番好きなキャラクターは誰？
- ⑦ 『ワンピース』で一番嫌いなキャラクターは誰？
- ⑧ 今まで学習してきた教科書の文学作品で一番好きな物語は？
- ⑨ 卒業をするまでに絶対にやってみたいことは何？
- ⑩ 校外学習（修学旅行）で行きたい場所はどこ？
- ⑪ 今晚地球に隕石が衝突するとしたら最期に食べたい夕飯のメニューは？
- ⑫ 『ドラえもん』の秘密の道具で一番ほしいものは？
- ⑬ 四街道みそら小学校で一番自慢できることは何？
- ⑭ 一番好きな教科は何？
- ⑮ 一番嫌いな教科は何？
- ⑯ 自分の好きなところってどんなところ？
- ⑰ 自分の嫌いなところってどんなところ？
- ⑱ 一つだけ願いを叶えてくれると言われたら何をお願いする？
- ⑲ 最近読んだ本の中で友だちに勧めたい本は？
- ⑳ 今までで一番頑張ったことは？

スマイル学級（自閉症・情緒）・ハミング学級（知的）

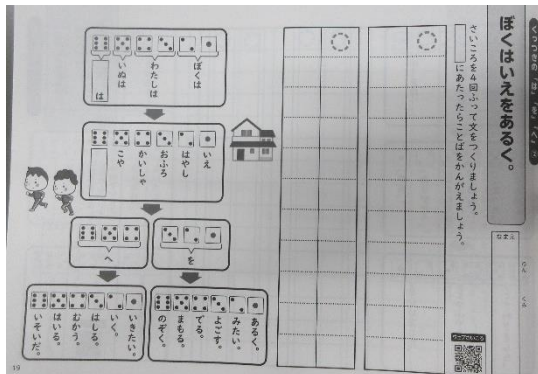
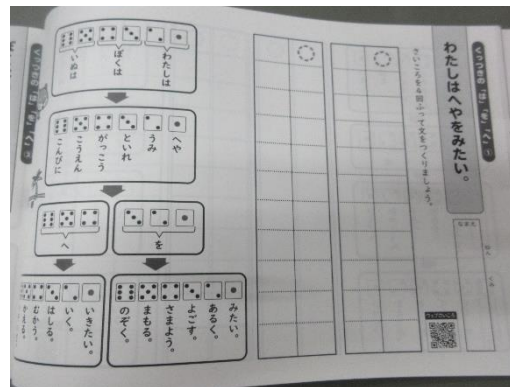
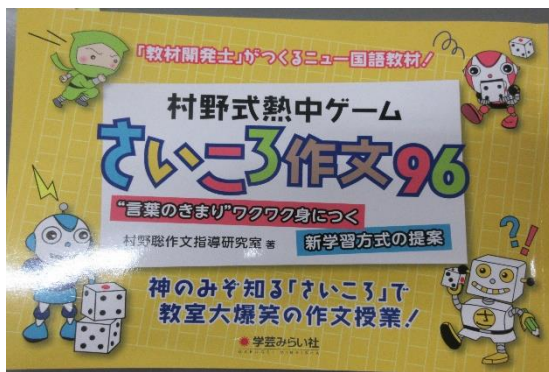
「さいころ作文」

- ・文章を書くことへの抵抗感が強く、書き方が分からない児童が多いので、楽しみながら取り組めるもの考えた。

「さいころ作文」は、さいころを振って出た目の数に合わせて指定された言葉をつないで文章を完成させるもので、学年の発達段階に応じてレベルが違うので児童も取り組みやすくなっている。ワークシートは言葉を選ぶだけでなく、自分で言葉を書き込んで文章にするものもあり、児童が楽しんで取り組めるようになっている。

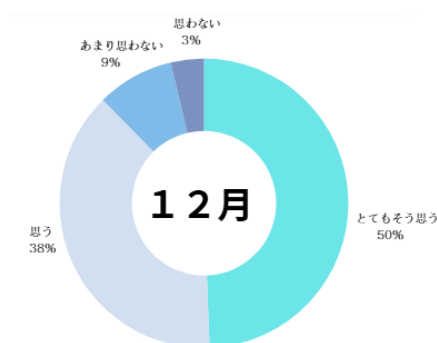
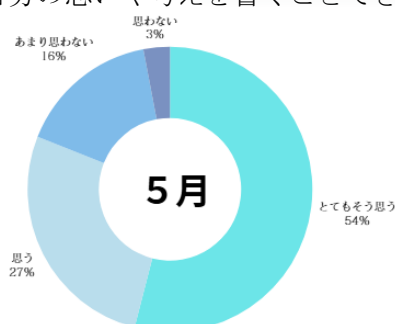
<成果>

- ・言葉が決められているので、書くことの抵抗感を少なくできた。
- ・文章を考えることが苦手な児童も楽しみながら文をつくることができた。
- ・「もっとやりたい。」と意欲的に取り組んでいた。
- ・間違った文章はできないので、安心して文を作ったり、楽しんだりすることができた。



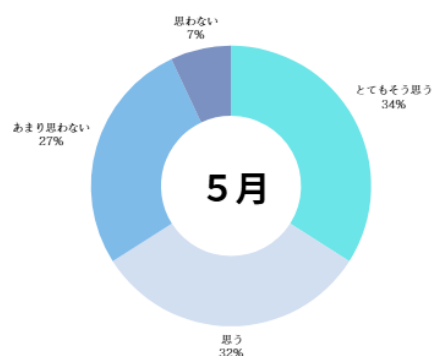
9 成果と課題

○自分の思いや考えを書くことができますか。



とてもそう思う・思う 81%から88%になり、自信を持って書くことができる児童が増えた。

○自分の思いや考えを書くことは楽しいですか。



とてもそう思う・思う 66%から78%になり、振り返りでも楽しく文章が考えられたという意見があった。

【仮説 1】

書くことを明確にし、学習の見通しをもつことができれば、主体的に自分の考えを表現することができるだろう。

○教師見本を作成し、提示することで構成や書き表し方が明確になり、学習の見通しをもつことができた。

○書く題材を児童が選べるようにすることで、意欲が高まり、主体的に取り組むことができた。

○掲示物の活用により、学びの蓄積や復習をすることができ、書く際の手助けとなった。

△ゴールの設定や相手意識をだれに向けて伝えるのかを、単元によってよく考える必要があった。

【仮説 2】

効果的に I C T 機器を活用することで、生き生きと自分の考えを表現することができるだろう。

○学年の発達段階に応じてタブレットを活用し、書くことへの意欲を高めることができた。

○共同編集や共有機能を使用することで、意見交換がしやすくなり、分かりやすい表現になったり自信がもてたりするようになった。

△ I C T の活用には積み重ねが必要。活用する単元や内容を精選していく必要がある。